事故防止対策委員会中間報告

～2021 年４月～９月までの取組み～

２０２１年１０月

事故防止対策委員会

作成者：近江　卓也（そよかぜ南の家　担当課長）

重大事故から約２年半が経ちました。

これまで事故防止対策委員会では、各事業所の事故防止の取り組みを共有し、ヒヤリハットの挙げ出し方（書式の変更）や、ロールプレイによる研修など、それぞれの事業所が工夫をし、法人全体で取り組んできました。

この間の社会的状況により、心肺蘇生・ＡＥＤ研修など大人数で集まることは難しく、心肺蘇生練習キットを使用しての内部研修や、消防署署員に講師をお願いし少人数での講習会を開催するなど、コロナ禍のなかでどうやったら出来るかを考え実行してきました。委員会の集まりもリモートで行うなどし、出来るだけ開催するようにしてきました。

日々、ミス・事故・ヒヤリハットの改善に取り組んでいますが、これらが０になることはありません。事故防止のためには、新しく入ってくる職員への教育と、長年働いている職員の支援の見直しとスキルアップが必要です。

今後も小さな気づきを見過ごすことなく、委員会で話し合い、委員が中心となって各事業所に持ち帰り事故防止に活かされることを願います。

2021 年 11 月６日

社会福祉法人そよかぜの丘　次長　雨宮　真由美

１．はじめに

本委員会は２０２１年度４月をもって新規設置をしてから３年目を迎えた。

各事業所の、日ごろから利用者支援に携わる代表職員から構成され、「重大事故は絶対に起こしてはならない。」という共通認識のもと、これまでさまざまな取組みを行なってきた。

重要なのは、

・重大事故を風化させないこと

・事故防止対策の取組みを継続させること

・全職員にその重要性を周知し、認識させた上で利用者支援にあたらせること

だと考える。

本報告書では、２０２１年４月から９月までの上半期取組みを中間報告としてまとめる。

２．昨年度（2020 年度）実施成果

1	各事業のヒヤリハット検証ができた
2	ヒヤリハットが上げやすい環境が作られてきた
3	職員の事故に対する意識がかわった（事故が起きてからでは遅い）
4	ヒヤリハットの優先順位の意識ができ、それに沿った改善ができてきた
5	利用者支援はコンサルタントの指導の下支援に努めた
6	マニュアル整備を行った
7	事業所ごとで風通しが良い風土になってきた
8	実践報告の場がもうけられた
9	ZIKOBOU@NEWS の定期刊行ができた

３．2020 年度で出た課題

1	職員が主体的に動ける職場作り
2	応援職員、兼務職員との情報共有
3	非常勤ミーティングも開催しているが、共有できない
4	事故防止はボトムアップとトップダウンのバランスが大切
5	職員同士の信頼関係

４．2021 年度重点実施事項

1	重大事故防止に関する取組みを継続して実施
	重大事故防止のために今後も継続した取組みを図り、ヒヤリハットに関する認識の醸成および、知識・技術の向上に努める。
2	実践報告の場をつくる
	各事業の良い実践を委員会で発表し、共有を図る。その取組みは、積極的に他事業でも取入れ、現場支援の向上を図っていく。
3	情報共有化
	各委員が責任をもって、当委員会の取組みを情報共有していく。また、関係する委員会と連携を図っていく。

５．委員

1	中川 明子（委員長）	地域支援室
2	佐藤雅英（副委員長）	そよかぜの家　日中活動支援課
3	井上祐貴	そよかぜ南の家
4	落合圭大	グループホーム支援課
5	稲葉直巳	そよかぜの家　生活支援課
6	金粕美幸	キララそよかぜ
7	戸田拓応	あ～すそよかぜ
8	雨宮真由美	そよかぜの家　次長
9	近江卓也	そよかぜ南の家　担当課長

６．委員会取組み執行状況

5/14（金）	・新メンバー紹介 ・昨年度委員会活動の振り返り（成果と課題の共有） ・2021 年度の方向性検討 ・2021 年度年間計画作成
6/25（金）	・ヒヤリハットの定義についての勉強会 ・各事業所４、５月分ヒヤリハットとその対策の報告 ・ヒューマンエラーとその対策について
7/30（金）	・実践報告会（地域支援室） 自閉症の方の対応について～発達障害者支援センターのコンサルテーションを通して～ ・各事業所６月分ヒヤリハットとその対策の報告 ・マニュアル整備に向け

8/27（金）	・各事業所７月分ヒヤリハットとその対策の報告 ・マニュアル整備に向けて現状と課題
9/24（金）	・各事業所７月分ヒヤリハットとその対策の報告 ・上半期各事業所振り返り ・これまでの現場経験で印象的なヒヤリハットの共有

７．ZIKOBOU@NEWS の発行

第 09 号（６月発行）	第 10 号（７月発行）
・年間スケジュール ・重点実施事項 ・委員会メンバー紹介	・グループホーム取組み報告 ・入浴演習について ・コロナウイルス対策について ・各館の状況把握、巡回について ・コラム
 そよかぜの丘　事故防止対策委員会　活動内容 SOYOKAZE ZIKOBOU @NEWS Vol. 09 2021年6月号 2021年度　年間スケジュールを立てました 2021年度　重点実施事項 事故防止スケジュール 委員会メンバー紹介	 そよかぜの丘　事故防止対策委員会　活動内容 SOYOKAZE ZIKOBOU @NEWS Vol.10 2021年7月号 はじめに グループホーム取組み報告 ○入浴演習について 勉強会と実践の様子 ＜男性職員1名体制の場合＞ ＜女性職員2名体制の場合＞

８．各事業の取組み

（１）そよかぜ南の家

安全に対する支援力向上を第一として、①外部研修会受講と②マニュアル作成、③内部勉強会の実施に力を入れた

①外部研修参加状況

- 普通救命講習（5/10）
- リスクマネジメント（7/10）
- 苦情解決研修会（7/16）
- リーダーシップ研修（8/24）
- チームリーダーのための接遇研修（7/8）
- 薬と上手に付き合おう（7/16）
- 障害者基礎研修（8/12）
- 衛生管理講習会（9/29）

②マニュアル作成

- 利用者対応マニュアル
- ヒヤリハットの理解
- 救命処置
- 運転ドライバー
- 苦情対応
- 権利擁護

③内部研修の実施

急変時の緊急対応	心肺蘇生訓練
ヒヤリハットの理解	食事時における緊急対応

（2）そよかぜの家日中活動支援課

①ミスヒヤリハット振り返りアンケートの実施

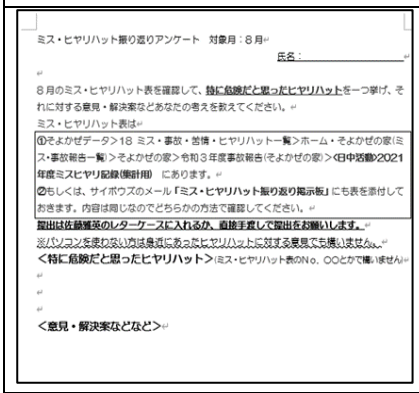
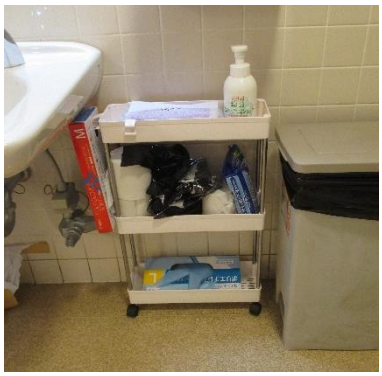
過去のミスヒヤリハットを振り返ることを目的に、振り返りアンケートを実施。
アンケート結果をもとに、月一回の日中活動ミーティングにて意見の共有や議論を行っている。

②短時間パート職員の導入

勤務内容としては昼食の準備・配膳、食事介助、トイレ介助、利用者把握、下膳・片付けを行っている。
短時間パート職員を導入することで、「昼休憩が取れない」問題を解消し、そよかぜの家がより働きやすい職場環境となった。
休憩をしっかり取れることはヒューマンエラー対策にもつながり、短時間パート職員の導入は事故防止にも大きく貢献している。

④トイレ用備品カート導入

トイレに置いてある液体石鹸の中身やトイレットペーパーなどを流してしまうため、いつも事前に職員が出し入れしていたが、細々したものを１つ１つ出すのは大変だった。
物を一度に取り出せるように備品カートを設置した。

①ミス・ヒヤリアンケート	②短時間パート職員	③トイレ用備品カート
		

ミス・ヒヤリハット振り返りアンケート　対象月：８月

氏名：

８月のミス・ヒヤリハット表を確認して、**特に危険だと思ったヒヤリハット**を一つ挙げ、それに対する意見・解決案などあなたの考えを教えてください。
ミス・ヒヤリハット表は
①そよかぜデータ＞18 ミス・事故・苦情・ヒヤリハット一覧＞ホーム・そよかぜの家(ミス・事故報告一覧)＞そよかぜの家＞令和３年度事故報告(そよかぜの家)＞日中活動＞2021年度ミスヒヤリ記録(集計用)　にあります。
②もしくは、サイボウズのメール「**ミス・ヒヤリハット振り返り掲示板**」にも表を添付しておきます。内容は同じなのでどちらかの方法で確認してください。
提出は佐藤様宛のレターケースに入れるか、直接手渡しで提出をお願いします。
※パソコンを使わない方は最近にあったヒヤリハットに対する意見でも構いません。
＜特に危険だと思ったヒヤリハット＞(ミス・ヒヤリハット表のNo、○○とかで構いません)

＜意見・解決案などなど＞

③内部研修の実施

AED 研修	機械浴・入浴ロールプレイ	自閉スペクトラム症

（3）そよかぜの家生活支援課

①重大事故防止のための年間実施スケジュール

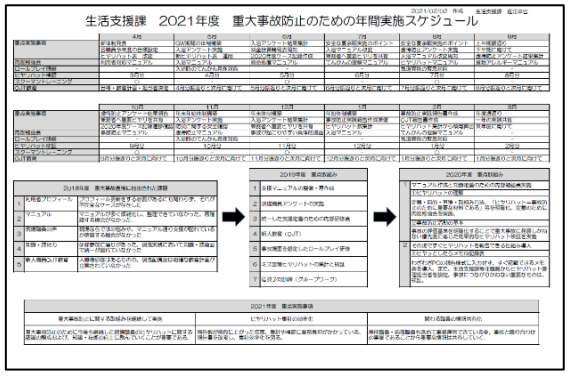
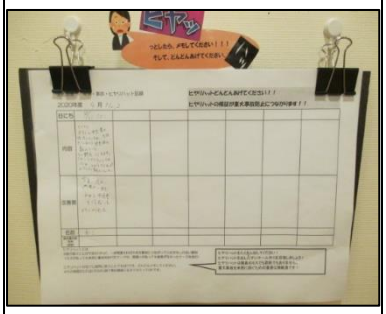
継続して事故防止対策が実施できるよう年間スケジュールを立てた。
内部研修会、ロールプレイ研修、ヒヤリハット検証、スクーマン（心肺蘇生訓練）トレーニングを計画性をもって取組んでいる。

②ヒヤリハット機能の活用

ヒヤリハットが起きた際に、すぐに書ける書式を使用し、ヒヤリハット報告をしやすい工夫をしている。
挙げられたヒヤリハットは月ごとに集計をして、ミーティング時に振り返りを行なっている。

③安全な支援実施のための環境整備

挙がったヒヤリハットから、掲示物の改善、マニュアルの改良、物品購入、ケース検討等の改善を積極的に行った。

①年間実施スケジュール	②ヒヤリハット機能の活用	③環境整備
		

④内部勉強会の実施

発作時対応のロールプレイ		誤嚥防止研修

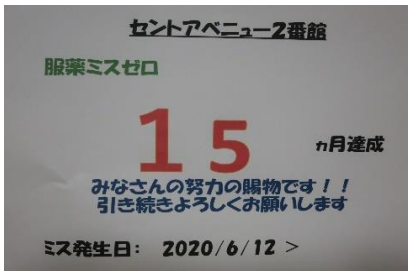
（4）グループホーム支援課

①受講した外部研修の情報共有と内部勉強会実施

・薬を知って上手に付き合おう　・組織とは　・危険予知訓練（KYT）
・身体拘束・虐待について　・ひやりハット事例

②ミス・ヒヤリハットの積極的な挙げだしと検証

服薬については、服薬ミスの期間が明確に把握できていなかったので、まずは、ヒヤリハット表に記入した。意識付けを込めて、見える化し、全館掲示をした。
食事場面や服薬状況の確認などを他職員と行い、服薬ミスを未然に防ぐ体制づくりを行っている。

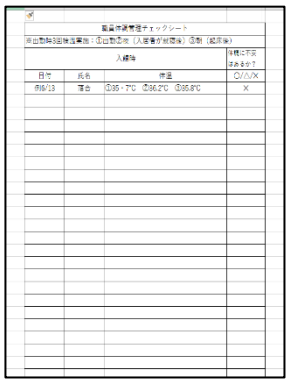


③ホーム巡回

支援が必要なホームには時間帯により巡回職員を配置し、複数体制にした。

④体調管理シートの活用

体調管理シートを作成し、
①勤務に入る前、
②夜（入居者が就寝後）、
③朝起床時
計３回検温し体調管理に努めている。



⑤内部勉強会の実施

入浴演習

（5）キララそよかぜ

①安全のための呼び出しボタンの活用と徹底

トイレ内に設置している呼び出しボタンへの反応の遅れが目立ち、室内に写真付きのポスターを掲示。緊急時にも呼んでいる人がいるということを周知した。

②呼び出しボタンの場所固定

利用者によっては気になってボタンを移動させてしまう方がいる。本来使う場所にないことで、緊急時に使用できなくなる恐れがあったため、ボタンが定位置にあるかを確認するために掲示を行った。

③浴室に緊急時ボタンの導入

浴室内に緊急呼び出しボタンがなく、新たに設置をした。入浴対応者が首から下げるタイプのボタンを携帯し、緊急時にボタンを押すと、事務室や作業室につながる。入浴前にはボタンのテストを行うことで、不具合が起きていないかを確認している。

①導入した掲示物	②導入した掲示物	③入浴時の緊急ベル導入

④事業所内で起きたヒヤリハットをまとめ、職員共有

全体会議にて、他事業所のヒヤリハット、ミスを共有する場面を設けた。キララでも起こり得るものを挙げだし、全体共有することができた。

⑤パートミーティングの積極的実施

非常勤職員の意見を発信する場として、毎日 15 時よりパートミーティングを実施することになった。勤務時間もバラバラなため、なかなか意見を述べる場所もなかったことや、全体での共有事項を発信する場として開催を決めた。支援での困りごとや、気になる点などを発信することができるようになった。

⑥避難訓練の実施

キララは法人内で唯一、土砂災害危険区域となっている。所要時間や持ち運ぶもの、その他課題等がわかった。また、災害時に持ち運ぶ、利用者の個人情報やかかりつけの病院などが記載されているシートをファイリングし、一冊にまとめた。災害時などにはこのファイルを持ち出す。

（６）あ～すそよかぜ

① 定期的なパートタイムミーティングの実施

月に１回、パートタイムミーティング（専任者・兼務者全員出席）を実施した。
安全な支援、事故防止実施のための業務改善案を話し合っている。例としては、食事介助時の体制について改善案を挙げ、実施することとなった。
昼食時の食事介助や服薬場面は、職員も気を張るところである。
職員の休憩体制も含めて余裕をもたせる勤務形態を形成できるよう取り組んでいる。

② 支援員の心身の健康を考えた取り組み

支援者が活き活きする職場作りが実現してこそ、利用者への安全な過ごしの提供に繋がると考える。
昼食時の食事集約者の追加配置を行った。これは、食事介助に入るのではなく、全体把握・見守りとして、服薬、歯みがき介助、特定利用者昼食後の過ごし場所への誘導を行なっている。
日々の対人援助はプレッシャーとストレスとの隣り合わせの中で、「全スタッフがここで働いて良かったと思える職場づくり」を目指し、確実な休憩時間の確保をはじめとした環境改善を実施している。

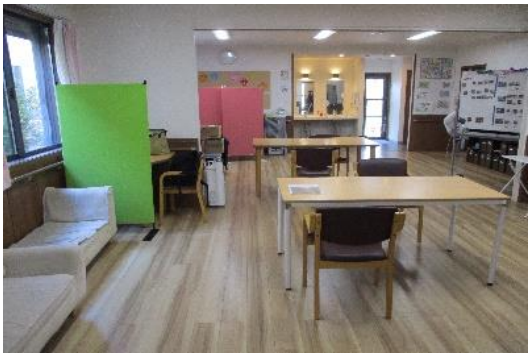
③マニュアルの再確認

職員間でマニュアルの再確認を行なっている。
緊急時に備えた利用者緊急連絡先シートの確認・更新を進めている。

④パートタイムミーティングを実施しケース検討を行った

１０月７日（木）にパートタイムミーティングを実施した。
不適切行動につながるケースに関する検討を行ない、結論として、利用者の話をまずは聞き、あ～すの環境設定（フロアをパーテーションで仕切る等）で可能な支援を試行錯誤しながらおこなっていくことになった。
今後も定期的にパートタイムミーティングを実施する。
無理のない支援、安全な活動目指していく。

支援環境の整備実施



（7）そよかぜの家　地域支援室
（港南区基幹相談支援センター、横浜市自立生活アシスタント、横浜市後見的支援室）

①職員研修、勉強会、会議への継続的参加

緊急事態宣言下の研修や勉強会はオンラインでの参加となった。自立支援協議会の代表者会議、専門部会は初めてオンライン開催となったが、例年と変わらない機関が参加できた。

事故防止委員会においても８，９月は ZOOM で開催した。委員会としてオンライン会議は初めてだったが、スムーズに実施できた。

【研修内容】

4/6　横浜市後見的支援制度全体研修

5/18～12/18　横浜型医療的ケア児･者等支援者養成研修 全８回

6/30，7/5　令和３年度子ども虐待予防研修（オンライン）

8/6　障害のある方のすまいを考える（オンライン）

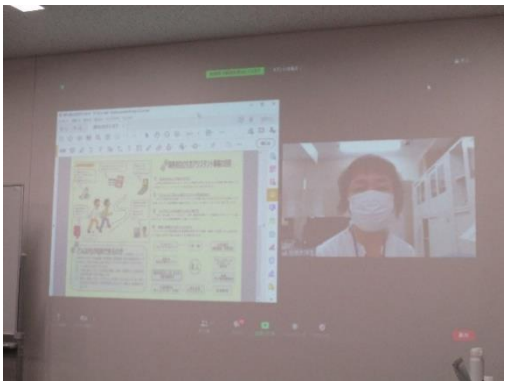
8/24，8/25　精神障害者支援の障害特性と支援方法 全２回（オンライン）

8/27　ふれあい医学講座（オンライン）

9/15　基幹相談支援センター権利擁護研修（オンライン）

9/16　発達障害者相談基礎研修（オンライン）

9/28　障害のある子の自立生活を考える（オンライン）



（自立支援協議会オンライン開催の様子）

（ミーティングの様子）

②ヒヤリハット報告と対策検討

相談・自立ミーティングで毎月ヒヤリハット報告を行い、対策を全員で考えた。

③訪問の代わりに面談や電話、関係機関との関わりの強化に努めた

個別支援会議では、ZOOM を使って主催し、コロナ禍であっても切れ目のない支援が実施できた。参加側から主催者側にステップアップすることができた。